

令和 元年 6月 20日現在

機関番号：12611

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K13129

研究課題名（和文）生涯発達に即した‘感情マネジメント’をフェーズに組込んだ危機予防教育の開発

研究課題名（英文）The Development of Crisis Prevention Program with Emotional Management

研究代表者

大森 美香（OMORI, Mika）

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：50312806

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：危機に遭遇したときの子どもや高齢者のリスク認知や感情マネジメントは、成人と異なる特徴を有すると想定され、危機予防教育改善には、生涯発達からのアプローチが必要不可欠と考えられる。

危機やリスクは文脈により多様な意味をもつことから、本研究では、健康に関するリスク、学校危機との関連における感情マネジメントに着目することとし、2つの課題を設定し、調査およびプログラムの施策を行った：1) 危機・リスク認知、感情、予防行動の関連性の解明；2) 学校危機予防、ソーシャルスキルトレーニング、道徳性の促進のアプローチの開発。

研究成果の学術的意義や社会的意義

危機予防教育は、特にアメリカで既に1960年代から普及してきた。今日、特定のリスクを抱える集団をターゲットとした限定的な対応から健常な子どもを対象とするユニバーサルな予防教育のニーズが高まっている。一方、我が国の危機予防教育は端緒についたばかりである。その多くは経験則にもとづき危機意識を喚起するものであり、エビデンスの点で十分とはいえない。危機意識やリスク認知と感情マネジメントとの関連、その発達的变化の解明は、より有効な危機予防教育プログラムの開発のため意義あることと考えられる。エビデンスに基づく危機予防教育実践の新たな方向性を提起するものとして、国内外への発信が期待できる。

研究成果の概要（英文）：Appropriate emotional management and risk perception are required to manage unexpected crises. Therefore, it is critical for scholars and practitioners to develop evidence-based programs to enhance emotional management. Focusing on emotional management appropriate for each developmental stage, the purpose of the current project was twofold: 1) the investigation of relationships among risk perception, emotional management, and disease prevention behaviors; and 2) the development of crisis prevention program, social skill trainings, and moral development approach.

研究分野：健康心理学

キーワード：感情 リスク 危機予防 ソーシャルスキル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の大災害発生や新たな感染症の流行から、リスクコミュニケーションに注目が集まるようになった。リスクコミュニケーションは、「リスクのより適切なマネジメントのために、社会の各層が対話・共考・協働を通じて、多様な情報及び見方の共有を図る活動」(安全・安心科学技術及び社会連携委員会, 2014)と定義されている。リスクや危機的状態の予防として、社会や組織レベルのマネジメントは、環境や制度の整備に焦点をあてている。一方、個人レベルのマネジメントに対しては、できごとへの個人の“備え”を強調しているが、この“備え”にあたる心理的要因は明確ではない。

災害など非常事態への準備や疾病予防行動に対しては、心理的要因の中でも特に、危機・リスク認知が強く関連すると想定されている。同時に、2000年以降の感情知能の研究の進展に伴い、リスク認知に応じた適応行動の選択に、感情マネジメントなどの感情コンピテンシーやリテラシーの要因が深くかかわることが指摘されるようになり、エビデンスの蓄積が求められている(Mayer & Salovey, 1997; Saarni, 1999)。

2. 研究の目的

災害、事件・事故、疾病の罹患など突然ふりかかるあらゆる危機に適切な行動をとれるかどうかは、認知的に適正なリスク評価が前提となる。しかし、実際にはパニックや混乱により感情マネジメントがうまくいかず、的確なリスクの認知やとるべき行動が予測できない状況に陥ることが少なくない。特に、危機に遭遇したときの子どもや高齢者のリスク認知や感情マネジメントは、成人と異なる特徴を有すると想定され、危機予防教育改善には、生涯発達からのアプローチが必要不可欠と考えられる。

危機やリスクは文脈により多様な意味をもつことから、本研究では、健康に関するリスク、学校危機との関連における感情マネジメントに着目することとし、2つの課題を設定した。

【課題1：危機・リスク認知、感情、予防行動の関連性の解明】

健康に関するリスクの認知は、脅威や不安を喚起する。健康関連のリスクコミュニケーションのアプローチは、脅威や不安の喚起を前提としている。このような脅威や不安と実際の健康関連行動の関連や、発達段階や文化の影響の解明は、感情マネジメントを取り入れたリスク行動の有効な予防プログラムの開発につながるものと考えられる。

【課題2：学校危機予防、ソーシャルスキルトレーニング、道徳性の促進のアプローチの開発】

ソーシャルスキルトレーニングや道徳性の促進は、いわば子どもの免疫力として、学校のさまざまな危機的事態の予防につながると考えられる。ソーシャルスキルトレーニングは、家庭、学校、企業と、子どもから成人をとおして生涯発達のさまざまなフェーズに応用されている。また道徳性の促進は、発達を促す教育的アプローチとして重要である。そのエビデンスを蓄積し、具体的な支援策および教材の開発を目的とする。

3. 研究の方法

【課題1】

課題1では、質問紙調査およびすでに収集されたデータを用いて、青年期および成人期の健康リスク行動と健康促進行動のモデル検証を行った。

【課題2】

(1) 道徳性の発達および具体的アプローチを収集し、道徳感情の発達の検討の予備的研究として、保育所にて思いやりを育てるための絵本の読み聞かせ教育を実践した。道徳的感情として、「かわいそう」、「ダメ」、「幸せ」、「嬉しい」を選択し、それらを促す教育の実践として俳優による絵本の読み聞かせを行い、3歳、4歳、5歳の子どもの表情・反応語彙を収集した。

(2) 学校危機予防対策に関する研究：質問紙調査を行い、学校危機予防尺度の作成を試み、学校危機予防対策の内容について検討した。

4. 研究成果

【課題1】

・青年期喫煙行動に関する日米比較データの分析を行った。調査対象は、日米の中高生(アメリカ844名、日本734名)であり、自尊感情、健康信念、社会規範と、喫煙行動の関連が、文化により調整されるかどうかの検討を行った。日本においては、周囲の喫煙普及の認知度が、過去1ヶ月間の喫煙に関連するが、アメリカにおいてはそのような関連がみられず、相互依存的自己観が強調される文化(日本)と、相互独立的自己観が強調される文化(アメリカ)による差異が明らかになった。

・成人期の感染症予防行動の説明モデルとして、従来の健康信念モデルを用いて検討した。調査対象は、成人期の男女911名であり、健康信念、パーソナリティ、社会的要因の関連が認められるかどうかを検討した。結果より、予防行動に関するキューが予防行動の予測に重要な役割を果たすことが示唆され、脅威喚起のみならず行動のためのきっかけが重要な役割を果たすことが明らかになった。

【課題2】

- (1) 3歳から5歳の子どもを対象として、道徳的感情を促す教育の実践を行った。3歳でも、「嫌」な気持ちを抱くことが認められた。4歳になるとかなり活発に、「かわいそう」といった言葉が発せられた。5歳になると、言葉を選ぶような様子が観察できた。
- (2) 学校危機予防尺度を作成し、養護教諭1,000名以上を対象に、学校危機予防の各側面において不備があるかの分析を行った。組織との連携のあり方について管理職との十分なコミュニケーションが取れていないことが明らかとなった。
- また、学校危機フェーズに合わせて、子ども達の免疫力としてソーシャルエモーショナルスキルを支援することや、子ども達の環境認知によってワクワクするような場所アイデンティティを高める具体的な方策について提案した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

- 渡辺弥生 (2019). 「社会性と感情の発達」を基本にした道徳授業 - ソーシャルエモーショナルラーニング (SEL) の考え方 指導と評価(6月号), 24-26. 図書文化.
- 渡辺弥生 (2019). 「ソーシャルスキル・トレーニング」プログラム, 教育技術小三小四, 8-13. 小学館.
- Yoshitake, N., Omori, M., Sugawara, M., et al. (2019). Do health beliefs, personality traits, and interpersonal concerns predict TB prevention behavior among Japanese adults? *PLoS One*, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0211728>. 【査読あり】
- 渡辺弥生 (2018). ソーシャルスキルトレーニングの”これまで”と”これから” 日本学校心理学会年報, 10, 25-32. 【査読あり】
- 大森美香 (2017). 「肉を食べることとモラル・ジレンマ」 *Vesta*, 108, 44-47. 味の素文化研究所.
- Omori, M., Yamawaki, N., & McKyer, E.L. (2015). A Comparative study of smoking in American and Japanese adolescents: Self, social influences, and health beliefs. *International Journal of Adolescent Mental Health and Addiction*, 13, 345-360. 【査読あり】

[学会発表](計11件)

- Watanabe, Y. & Motomura, Y. Relationship between emotional literacy development and empathy in childhood. Symposium "Emotional development in early and middle childhood: Children's interpretation and expression of emotions in relation to interpersonal communication". The Asian Conference on Psychology & Behavioral Science, Kobe, March23, 2018.
- Harada, E. & Watanabe, Y. Social skills training for high school students: Focusing on evaluation of training in schools. The 40th Annual Conference of the International School Psychology Association, PPA0312, 2018.
- 渡辺弥生 SELが育む非認知的能力-何を育どのように子どもたちの幸福に貢献するのか- 指定討論者. 日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 9月16日, 2018.
- 渡辺弥生・原田恵理子 ソーシャルスキルトレーニングを定着させるコンサルテーション 日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 9月16日, 2018.
- 渡辺弥生・原田恵理子 ソーシャルスキルトレーニング 日本心理学会第82回大会チュートリアル, 仙台国際センター, 9月25日, 2018.
- Watanabe, Y. Social and emotional learning as moral education. The 12th Anniversary Conference of the Asia-Pacific Network for Moral Education, Kaohsiung Normal University Kaohsiung, Taiwan, April 26, 2018.
- Watanabe, Y. Social and emotional learning for elementary school students. The 12th Anniversary Conference of the Asia-Pacific Network for Moral Education, Kaohsiung Normal University Kaohsiung, Taiwan, April 26, 2018.
- 渡辺弥生・湯澤美紀・芝崎美和・徳田英子 子どもの感情発達を支えるもの-文化・社会・保育の視点から- 自主シンポジウム, 日本乳幼児教育学会, 岡山県コンベンションセンター, 2018.
- Aizawa, N. & Omori, M. Effects of optimistic and defensive pessimistic expectations on coping processes under academic pressure. Paper presented at 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 26, 2016.
- Omori, M. The Role of Emotional Management on Psychological and Physical Health: The Implications for Mental Health in the Aged Population. Paper presented at Contributed Symposium, 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 27, 2016.
- Omori, M. Organizer: Invited Symposium "Psychology and Disease Prevention", 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 27, 2016.

〔図書〕(計5件)

- 渡辺弥生 (2019). 『感情の正体 発達心理学でマネジメントする』 ちくま新書
渡辺弥生 (2019). 『絵で見てわかる「しぐさ」で子どもの心がわかる本』 PHP 出版
渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子編著 (2019) 『小学生のためのソーシャルスキルトレーニング』 明治図書.
渡辺弥生・西山久子編著 (2018) 『必携 生徒指導・教育相談―生徒理解、キャリア教育、そして学校危機予防まで』 北樹出版
渡辺弥生 (2018) 「道徳性の発達とネット社会に求められる教育」 西野泰代・原田恵理子・若本純子編著 『情報モラル教育』 第3章(39-54) 金子書房.

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：渡辺 弥生

ローマ字氏名：WATANABE, Yayoi

所属研究機関名：法政大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：00210956

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：